

東京蜘蛛談話会通信 No. 82 (1994年10月10日)

⇒ 10 ~ 1月の活動 ⇒

1994年・採集観察会

日時 10月16日(日) 10:00~ (雨天決行)
場所 埼玉県飯能市「高山不動」(途中まで)
集合 西武池袋線「西吾野」駅前(駅に地図あり)
弁当は予め用意して下さい。駅及びその周辺に弁当屋がありません。
世話人は平松毅久 ☎0492-33-8792

予定: 次回・1995年2月19日(日)

合同例会案内

日時 12月11日(日): 目黒区立駒場住区センター 10:00~
講演と総会および懇親会
→ 世話人: 桑原幸夫 (多足類懇談会 ☎ 0493-24-9324)
駒場住区センターは東急井の頭線 「駒場東大前」下車徒歩10分

* 同封のハガキにて出欠・近況(通信に掲載)を事務局平松毅久まで

日程が変更になりましたので、ご注意お願いします。4日 → 11日

第8回だんわ会講演会

「コスタリカ紀行」——中米熱帯雨林の自然とクモ
場 所: 目黒区立駒場住区センター
日 時: 11月20日(日) 10:00~
参加費: 500円
世話人: 木村知之 ☎044-955-1610

→神奈川県の研修で中米コスタリカへ旅行された一行の現地紀行です。クモにかぎらず
中米熱帯雨林の自然全般について講演会です。 (予定講演者8名)

採集観察会中間報告 埼玉県飯能市「高山不動」 第一回 1994年5月15日(日) 雨
参加者(50音順)：阿部代始子、荒金泰子、池田博明、加藤むつみ、木村知之、小峰光弘、
笹岡文雄、新海 明、鈴木茂生、千田高史、伴 満、平松毅久、深瀬徳子、吉浜 隆、
安田明雄 (15名) その他雑誌取材記者2名

トタテグモ科 キノボリトタテ F
ジグモ科 ジグモ Ff
ハグモ科 ハグモsp. FM
ウズグモ科 マネキグモ y カタハリウズグモ FMy ウズグモ F
エンマグモ科 ミヤグモ y
ユウレイグモ科 ユウレイグモ Fy
ヒメグモ科 ツリガネヒメグモ y オオヒメグモ Fy オナガグモ fM
フタオイソウロウグモ f ヤリグモ Ffy ホシミドリヒメグモ F
ムラクモヒシガタグモ y ハンゲツオスナキグモ F バラギヒメグモ F
ヒロハヒメグモ F コケヒメグモ fMy ユノハマヒメグモ F
サラグモ科 ハシグロナンキングモ F クスミサラグモ FM ツリサラグモ F
アシナガサラグモ y ヘリジロサラグモ FM ユノハマサラグモ F
チビアカサラグモ F ヨツボシサラグモ Ff ヤミサラグモsp. F
ヨリメグモ科 ヨリメグモ y
コツブグモ科 ナンブコツブグモ F
コガネグモ科 キザハシオニグモ My ヤミイロオニグモ F イシサワオニグモ y
トガリオニグモ y ヤマオニグモ FM ヤミイロオニグモsp. F
ムツボシオニグモsp. m チュウ筋コガネグモ f ゴミグモ Ff ヨツデゴミグモ F
シロジショウジョウグモ M イエオニグモ F ヤマシロオニグモ f サガオニグモ F
カラカラグモ科 ヤマジグモ Ff カラカラグモ Mm
アシナガグモ科 コシロカネグモ f キララシロカネグモ y タニマノドヨウグモy
メガネドヨウグモ Ffy
ヒラタグモ科 ヒラタグモ f
タナグモ科 クサグモ y ヤマヤチグモ y シモフリヤチグモ F
キシダグモ科 アオグロハシリグモ y スジアカハシリグモ y 伊吹仰臥 F
コモリグモ科 ハリゲコモリsp. y
アンダカグモ科 コアンダカグモ f
シボグモ科 シボグモ f
カニグモ科 コハナグモ m ワカバグモ FM トラフカニグモ Ff やじかニグモ F
ハエトリグモ科 ヨダンハエトリ f アリグモ M デニツツハエトリ F
カラスハエトリ y ムツバハエトリ F
計71種

採集観察会中間報告 第二回 1994年7月10日(日) 晴

参加者(50音順) : 浅間 茂、阿部代始子、池田博明、笠原喜久男、加藤むつみ、木村知之
木村正明、鈴木茂生、千田高史、伴 満、平松毅久 (11名)

トタテグモ科 キノボリトタテ F
ジグモ科 ジグモ y
ハグモ科 ハグモsp. FM
ウズグモ科 カタハリウズグモ F ウズグモ F
ユウレイグモ科 ユウレイグモ F
ヒメグモ科 ヒメグモ y ツリガネヒメグモ Fye オオヒメグモ Fy
トビジロイソウロウグモ FM フタオイソウロウグモ F ヤリグモ F
コガネヒメグモ F ムラクモヒシガタグモ F バラギヒメグモ F
サラグモ科 アシヨレグモ y クスミサラグモ y アシナガサラグモ y
ユノハマサラグモ y
センショウグモ科 センショウグモ F
ヨリメグモ科 ヨリメグモ y
コガネグモ科 ヤマオニグモ F ムツボシオニグモsp. F ヤミイロオニグモsp. F
チュウガタコガネグモ F ナガコガネグモ y カラスゴミグモ F ゴミグモ F
シロスジショウジョウグモ F リキツサツマミダマシ y ヤマシロオニグモ F サツマノミダマシ y
ジヨロウグモ y カラフトオニグモ Fy
カラカラグモ科 ヤマジグモ Fe カラカラグモ Fe
アシナガグモ科 オオシロカネグモ FMy コシロカネグモ F
キララシロカネグモ FMy ヤマジドヨウグモ y タニマノドヨウグモ My
ヒラタグモ科 ヒラタグモ F
タナグモ科 クサグモ FM コクサグモ y
キシダグモ科 アオグロハシリグモ y スジアカハシリグモ FMy 付ウロハシリグモ Fy
コモリグモ科 ウヅキコモリ Fe キシベコモリグモ y
ササグモ科 ササグモ f
フクログモ科 ムナアカフクログモ F ウラシマグモ y
アシダカグモ科 コアシダカグモ (殻のみ)
エビグモ科 シャコグモ Fe
カニグモ科 アマギエビスグモ F コハナグモ FMe ワカバグモ y
トラフカニグモ F ヤミイロカニグモ F
ハエトリグモ科 ネコハエトリ y マミジロハエトリ FM ウデブトハエトリ F
ヤサアリグモ y チヤイロアサヒハエトリ M デニツツハエトリ M
チヤスジハエトリ F アオオビハエトリ FM ウススジハエトリ F
計69種 略号 F(♀成体) M(♂成体) f(♀幼体) m(♂幼体) y(不明幼体) e(卵)

平松毅久

夏の合宿 丹沢／松田町寄地区
池田博明

前日までは台風の上陸も心配された1994年7月23日（土），さいわい台風は北西方向にそれました。23日は快晴。今年は神奈川県足柄上郡松田町寄地区で談話会の合宿が行われました。世話人の私が、午後1時ごろ宿舎のあじさい苑に行ってみると、すでに浅間茂さんと加藤さん親子が到着していました。午前中から川で存分に付近の自然を満喫されたようです。

午後は2時ごろから、参集したみなさんでシダンゴ山へ行く道をゆっくり観察。一列にならんだオナガグモの分散やイシサワオニグモの鮮やかな赤色に目を見張りましたが、目の肥えた参加者を驚かす珍種は発見できませんでした。途中から久保田克哉さんと新海栄一さんが到着して参入。みなさんは4時ごろ宿舎に帰りましたが、戻った地点の近くのクリ林で新海栄一さんがトゲグモの♀を発見。本日最大の珍種となりました。これが翌日の大発見の伏線となりました。

その晩の夜間観察は近くの天王山コース。先頭集団は急な坂をどんどん登っていって、あまりクモがいないという感触を得たようでした。もっとゆっくり登っていいと思いますが。ゆっくり組はマネキグモやオナガグモの分散を見たり、コアシダカグモの卵のうガードを見たりしました。

翌24日（日）は天王山から櫟山コース。それぞれの体力に合わせて登りました。新海明さんが関東学院中学校の中学生を、安田明雄さんが横浜中学校の中学生を引率して来ました。途中の鉄塔でムナグロヒメグモの雌雄を観察。尾根まで行ったのは梅林力さん、千田高史さん、久保田克哉さんの3名。梅林さんの採集品のなかにキジロオヒキグモの♂が発見されました。

それと並んでの午後の最大の採集品はトゲグモの♂でしょう。加藤むつみさんと伴満さんがトゲグモをねらって昨日と同じ場所へ探索、首尾よく♀と♂を発見しました。トゲグモの♂は♀の網に同居していたそうですが、♂が採れたのは山川守さん・新海栄一さんに統いて、日本では4頭目か5頭目だろうとのこと。

夜間観察はこのシダンゴ山コースを周りました。

最終日の25日（月）は宿舎を出てから鍋割山への登り口である二俣で採集した後、秦野市の大倉で昼食、観察後に解散しました。二俣ではクロマルイソウロウグモやカギヅメカラスゴミグモ、クマダギンナガゴミグモ、ツリサラグモ、ムネグロサラグモ、アシナガサラグモなどを観察。大倉では新海明さんがまたまたトゲグモの♂を2頭も発見！

ホテルや旅館ではなかったので、朝は駅弁、昼はコンビニで買ったおにぎり、夜はバーベキュー（23日）かお寿司（24日）という簡易型でしたが、満足いただけましたでしょうか。

神奈川県の丹沢学術調査の一環として、調査に関する便宜を図って下さった新海栄一さんに感謝申しあげます。

会員参加者（50音順）；赤羽尚夫、浅間茂、阿部代始子、池田博明、泉宏子、泉千陽、梅林力、笠原喜久雄、加藤輝代子、加藤倫之、加藤むつみ、久保田克哉、貞元巳良、佐藤幸子、新海明、新海栄一、鈴木成生、高橋登、千田高史、長井芳夫、伴 満、平松毅久、古浜隆、安田明雄、山川守 ほか中学生3名

なお、採集品を同定された方は12月以前に池田まで御一報下さい（〒258 大井町金手1099）。

夏の合宿報告

トゲグモ採集記

伴 満

7月23日からの丹沢やどろぎ合宿の初日に新海栄一さんを始め2、3の方が、トゲグモの雌をシダンゴ山コースの栗林で採集されました。

翌日、蜘蛛飼育では有名な加藤むつみさんが繁殖用を是非採集したいとの事なので、小生がそれと覚しき処に案内する事にしました。前日ベテランが採集された処は出来るだけ避けてアチコチとさまよい歩きましたが発見できずに、結局は例の栗林とおほしき処にたどりつき、そこで思いもかけずトゲグモの雌雄2対を見つけ、夢中で写真に撮り、加藤さんと仲良く1対づつ分けました。まだ沢山居る様な気がしましたが、これ以上採るのはやめにしました。そして夜のミーティングで雄を採集出来た事は非常に珍しいと言われて大いに感激。大切に生かしたまま持ち帰り、写真を撮った後は液漬にして永久保存する事に致しました。

(以上)

金沢にて日本蜘蛛学会大会開催さる

日本蜘蛛学会第26回大会が8月20~21日、加賀百万石の城下町石川県金沢市にて開催されました。参加者は大韓民国からの4名を含め、53名になりました。

地元新聞二紙にも報道され、講演数15、ポスター発表2、シンポジウム1という構成で様々な研究発表が二日間にわたって行なわれました。

特に池田博明さんをオーガナイザに頂いた、シンポジウム「クモの交尾戦略と進化」は予定時間を越えて、”今のが先熟は有利な戦略か”といったテーマも出、文字どおり暑い討議が行なわれています。

そして大会に先立って行なわれた有志による兼六園の調査では、キシノウエトタテの再確認、また畠守有紀さんがワスレナグモ、キノボリトタテ（幼体）を発見する成果がありました。

またキシノウエトタテは園内の一定の場所に固まって棲息しており、その理由はハッキリしません。部分的な積雪のあるなしにかかわっているかもしれません。

なおキノボリトタテは日本海側分布北限の福井県若狭地方を越えることになり、もちろん石川県では初になります。またクモタケの発生も確認されました。

次回大会は福島県磐梯で開催されます。

(編)

コスタリカ紀行（1）

平松 賀久

皆さんはコスタリカという国をご存じだろうか。おそらく名前だけは聞いた事があるても地図上の位置や国情等を把握している人はごく少数に違いない。かくいう私も世界的名クモ研究者 E berhard がいる国と言う事以外は断片的な知識敷かなく、ごく最近間でどこにあるのか知らなかった。そのコスタリカへ行く事になった。談話会の谷川明男氏のご紹介で神奈川県高等学校理科部会の生物研修旅行に同行させていただくのである。因みにこの研修旅行はほぼ2年に1回「環太平洋」の諸国を巡って今年で10回目に当たるという。関係各位のご尽力に頭が下がる思いである。

私事で恐縮だが、海外旅行は初めてである。それがいきなりコスタリカである。正直少々不安もあったが、未知の自然に対する興味の方が大きかった。半年近く前から申請して会社に休みをもらったが、準備はなかなかはかどらず直前に慌ただしく旅支度を整えついに出発の日となった。

1. 羽田～サンホセ

1-1 出発、機上の人（「姥桜」満開）

うだるような暑さの中集合場所の横浜エアターミナルからバスで成田空港へそして18時40分予定より45分遅れて離陸。2時間以上飛行機に乗ったことがない私は長い旅を思うとやや憂鬱になった。しばらく隣席（同じツアーアー）の樋口氏と談笑する。氏は2度目の海外研修だそうだが、なかなかどうしてスチュワーデスとの応対など慣れたものである。ところで我々の乗ったアメリカン航空のスチュワーデスは揃いも揃って姥桜（失礼）で、中にはどう見ても還暦をとうに過ぎたとおぼしき方もおられて逆によく激務に耐えられるものだと感心したくらいであった。その彼女たちが機内食を配り始めた。実はこれこそ私が恐っていた瞬間であった。私の頭では機内食ニアリーコール宇宙食という突拍子もない連想が働き、「一体何を食わされるのだろう」という得体の知れない不安に襲われたのだ（下手物は平気なくせに変な奴）。食べた感想は「普通の食事の体裁をした物」であった。

1-2 商売繁昌？両替のオバハン

ダラスで飛行機を乗り換える。待ち時間の間（2～3時間）みんな写真をとったり、話をしたりして時間を潰していたが、そのうち銀行の出張所？のような窓口でドルをコスタリカのコロンに両替できる（勿論手数料をとられる）ことが分かり、数人が両替を始めた。普段はコロンに替える人などそう多くないらしくすぐ品切れになった。ところが敵もさるもの、窓口の米国人のオバハンはカモの群れを見てこの機会を逃すまいと思ったのだろう。程なく手下とおぼしき男が追加のコロンを運んできて（電話でオバハンが手配したに違いない）、結局私も含めて我々の殆どがここで両替を済ませたのだった。

ダラスの日は長い。サマータイムのせいもあるうが8時だというのに日本の4時くらいの明るさだ。何か得をしたような変な気分であった。

1-3 コスタリカ上陸

ダラスを出発し、グアテマラ経由でコスタリカのサンホセ空港に到着したのは11時半近かった。日本とは約14時間の時差があるという。この時差というやつどうもピンと来ない。とにかく長時間飛行機に乗っていたのと睡眠不足のせいで頭がボーッとしている。入国手続きの列に並んでいると「ようこそ平和と自然の国コスタリカへ」といった意味の看板（英語）が目に入った。日本だとわざとらしく嫌な感じのする言葉だが、不思議と違和感がない。それ程小さくのどかな空港である。全員入国手続きを終えると、ホテルへ向かうバスへ乗り込んだがこの時衝撃的な光景にでくわした。我々の荷物を作業員がバス間で運んでいる際夜も12時近いというのに10才ぐらいの子供がチップ欲しさのためだろう我々の荷物を運ぼうとして大人たちに邪険に追い払われとうとう泣き出してしまったのだ。最近では日本でも11時頃迄ウロウロしていることがあるようだが、たいてい塾かゲーセンの帰りであろう。あまり豊かな国ではないなというのが第一印象であった。

バスは10分程で最初の宿泊地Carriariホテル（首都サンホセ市内）に到着した。コスタリカ時間にセットした時計は12時15分を指していた。

チェックインを終えロビーで簡単に明日の説明を受けた後部屋へ入ると1時近かった。私は談話会の大先輩小峰光弘氏と同室であった。共に数少ない教育関係者以外の参加（日本蜘蛛学会）である。部屋に入ってしばらくして少し落ち着いた頃小峰氏がめざとくクモを発見。捕らえてみると日本でいうヤチグモのようであった。なかなか率先の良いスタートとなった。この日は疲れていたので入浴後すぐ寝てしまった。

2. サンホセ～ハコ、ビーチ～カララ自然保護区

2-1. いざ出陣

明け方強い雨の音で目覚めウトウトしながら、そういえばこの時期コスタリカは雨季なのだとと思った。7時すぎに起きる頃にはもう雨は上がっていた。部屋の窓から外を見るとアナスの1種と思われる淡紅色の花に蝶が舞っており熱帯へ来たのだと改めて思った。9時にロビー集合。この時谷川氏に先述のヤチグモもどきを見せたところ「人目に付くとまずい」と注意されてしまった。実はコスタリカでは法律が変わり、野生動植物の採集、、国外持ち出しは一切禁止されたらしい。事前に許可は申請していたのだが大使館から連絡のないまま旅行の日を迎えたのだった。空港へ向かうバスの中でこういった事情を説明しながら団長の両毛氏が「現地の人の前で絶対採集しないで下さい」と言っていたのを思い出し、小心物の私は想像以上の厳しい状況にすっかりびびってしまった（もっとも谷川氏の発言は研修委員という立場上仕方ないもので現地の人の目がないところではクモをとりまくっていたのは言うまでもない）。そういううちにロビーの一画で何やら人だかりがしている。行ってみるとホテルの天井付近の梁で2羽のベニコンゴウインコが飼われていた。動物園等で何回か見たことがあるが、赤、青、黄の原色が鮮やかな美しい鳥である。

全員が揃いいよいよ出発、と思ったら30分程走ったところで朝食をとるために小さなレストランに入った。レストランといつても日本人が想像するような近代建築物ではなくトタン屋根で平屋のごく質素な造りである。中に入ると天井に大きな三つ羽根の扇風機が会った。私はこれを映画でしか見たことがなかったためいたく感動した。もう一つ印象的だったのは柱にかかった

ツリスドリの巣で、単なる飾りか魔除け（恐らく後者だろう）かわからないがどこのレストランでもたいてい見ることができた。料理の方は最初に運ばれてきたのがフルーツでパパイア、パインアップル、スイカの3種類（これらは以後どこへ行っても必ず出る不動のラインアップであった）。この後炒り卵、ピラフ（小豆だかインゲン豆だかが入っており一見赤飯そっくりだが、オリーブオイルと香辛料の香りがいかにもエスニックで赤飯とは似ても似つかない味）と続いて仕上げはコーヒー（殆ど日本のお茶の感覚）であった。初めて口にした現地の食べ物の感想は「これなら大丈夫」だったのを覚えている。朝食後バスで太平洋に面したハコ、ビーチへ向かった。途中山道で一旦休憩。ハイビスカス？の赤い花に見とれるとどこからともなく青い金属光沢の蝶をきらめかせてモルフォチョウが飛んできた。皆歎声を上げて見守る中あっけなく飛び去ってしまった。この属の蝶には翅の表面に薄い透明な膜でできた鱗粉があり、膜の上と下の境界で反射したある波長の2つの光の山どうし谷どうしが重なって強められ一方他の波長（色）の光は山と谷が重なり消えてしまう、といった干渉作用により翅の輝きが生まれるらしい。一説には数キロ先でも見える事があるというが、綺麗なのは雄だけである。休憩した場所はちょっとした草地になっていて当然クモがいた。ひとつはシロカネグモの一種で日本のものと比べると腹部背面の模様は同じだが色は白っぽく頭胸部は赤みが強かった。そしてこの近くに奇妙な形のクモが少し傾いた水平円網を張っていた。腹部後端が二又に分かれて先が鋭く尖っていて腹部背面中央部にも4つ小さな棘があった。谷川氏によると *Micrathena sexspinosa* というクモらしいが和名をつけるとさしづめムツトゲイガグモとでもいうのだろうか。網にいるときは腹を上に向けてるので分かりにくいけれど腹部背面は紫の地色に黄色い斑紋があってなかなか派手である。最初は珍しいので写真を撮ったり勿論中には採集したりした人もいたが後でごく普通種であるとわかった。

2-2 ハコの海浜物語

11時頃ハコ、ビーチに到着。ここはリゾート地らしく建物も白亜の近代的なもので、レストランやプール（なぜ海の近くにあるのだろう）の設備も

ある。1時間程度自由時間ということで浜へ出ることにした。途中にジョロウグモの一種*Nephila clavipes* (日本のものは*N. clavata*) が1頭いた。網構造は日本のジョロウとほぼ同じだが池田氏によると観察したものでは2分割糸（足場糸を張るとき所々もともと1本の縦糸をはじいて2分割し、縦糸を増やす機構、新海明, 1982）は殆どなかったそうだ。浜に出ると海水浴客は皆無に等しく、遙か波打ち際では褐色ペリカンが低空飛行している。「鳥屋」さんは早速望遠鏡をセットして観いている。砂浜を素早く走るカニの観察を始めた人もいる。実にのどかだ。日本の湘南や九十九里浜とはなんという違いだろう。しばらくボーッとしたあと「クモ屋」の端くれとしてクモを探す事にした。木の柵に円網があったが主不在のものばかり（網のまわりにもいなかった）。結局ここで見つけたクモはゴミグモの一種1頭と低木の葉に円網を張りリトリートに隠れていたコガネクモ科の一種1頭のみという悲惨なものであった。ところで後者のクモを見つけた葉の近くに翅が白地に赤と紺色の陶器のような模様の美しいヨコバイの一種がいた。小さな昆虫でも綺麗なやつがそこそこのものだと感心した。

昼食の最中上空高く猛禽が舞っていた。トビか何か（まさにそんな感じで普通にいる）だと思ったらコンドル (Black vulture)だという。そう言われてみると心なしか雄大な感じがした。このあと我々は次の目的地カララ自然保護区へと向かうのである。因みにタイトルを見て色気のある話を期待された方、残念でした。また今度。

2-3 のどがカララの熱帯雨林（サウナ風呂）

カララへ行く途中売店に立ち寄った。ミネラル、ウォーターを買うのが目的だという。そのときはピンと来なかったがカララに着いて熱帯雨林内に入った途端飲み物は必需品だと痛感した。とにかく蒸し暑い。まるでサウナのようだ。少し歩いたところで垂直円網にいるトゲグモの一種*Gasteracantha* sp. を見つけた。上から見るとトゲグモやチブサトゲグモに似た体型だが淡褐色で光沢があり例えは悪いがココナツクッキーを思わせる。ただ側方から見ると腹部が頭胸部よりかなり上に持ち上がっている。

いつもの談話会ペースでクモを探していた私を含む数人はたちまち先行集

:

団に取り残された。この旅行でわかった事だが「クモ屋」のペースに一番近いのは「キノコ屋」さんだった。そのうちの一人から「葉上苔類」を教えていただいた。文字どうり木の葉の表面にコケが生えており熱帯雨林内のように湿度の高い所でないと見られないらしい。その他に赤褐色の金属光沢のある小型のセンチコガネの仲間やコメツキムシほどあるホタルの仲間などの昆虫を見ているうちに先行集団が戻ってきた。もう終りだと言う。私は戻る途中倒木のくぼみで目標のひとつカラカラグモの一一種を（あくまでも）誤って捕らえてしまった。ただ残念なことに網は確認できなかった（網を張っていなかった）。

林の外へ出ると全身汗びっしょりで一気にミネラル、ウォーターを飲んだ。丁度ゲートの前の木の枝からツリスドリの巣がぶら下がっており、鳥も飛んできていたが多くの人間が注目していたせいか巣の周りを飛び回るだけで、結局巣へ入るところは見られなかった。 ホテルへ戻るバスの中で初日にしてはまあまあだが思ったよりクモが少ない気もした。まあ先は長い、明日も頑張ろうと思っているうちに日は沈みこの日の研修は幕を閉じた。

事務局より

《 お詫びと追加 》

4月の例会・総会の出席通知のハガキについて、何らかの郵便事情で埼玉県浦和市の笠原喜久男さんの分1通が通信発行後、事務局に到着しました。郵便事情の結果とはいえ、掲載が出来なかつたことをお詫びし、遅きに失していますがそのハガキの近況をここに載せさせて頂きます。

★笠原喜久男（埼玉県浦和市）先日、だんわ会第5回観察採集会があり、東京のド真中でどんなクモが見られるのか興味津々で参加しました。銀座4丁目から日比谷公園まで、途中の小さな公園では、ほとんど何も見られませんでしたが、日比谷公園では、アサヒエビグモ、クサグモ、スネグロオチバヒメグモ、ウラシマグモ、オトヒメグモ、ネコグモ、それとキシノウエトタテグモの巣穴を見るることができました。

〈 会員動向 〉

（休会） 中島祥吉 （本人申し出により1995年から）

*会計担当について

今年度より高橋祐子が担当しておりましたが、都合により7月から事務局の平松毅久が務めます。したがいまして平松が事務局および会計を兼務します。

会計関係の連絡お問い合わせも下記へお願ひします。

事務局・会計 平松毅久 〒350埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘 202 ☎0492-33-8792

郵便振替口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

→ 会計だより（会費受領など）は次号にてまとめて掲載いたしますので、悪しからずご了承お願ひします。

募 集 !

原稿を募集しています。ドシドシ下記にお寄せ下さい。

※KISHIDAI

木村知之 〒215神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12 ☎044-955-1610

1. 原稿用紙は市販の400字詰め原稿用紙を使用してください。ワープロの場合はA4サイズに40~44字×36行を目安としますが、そのファイルを入れたフロッピーも同時に送付して下さい。詳細は木村まで。
2. 学名などイタリック体を使用する場合には、その下に赤線を引いて下さい。（学名の場合、属名と種名、それぞれに赤線を引いて下さい。）
3. 写真は白黒にして下さい。図は製図用インクなどで、墨入れして下さい。
4. 文章は5行目から書始め、1行目にタイトルを3行目に著者名を書き入れて下さい。

(1989年4月15日改正)

※通 信

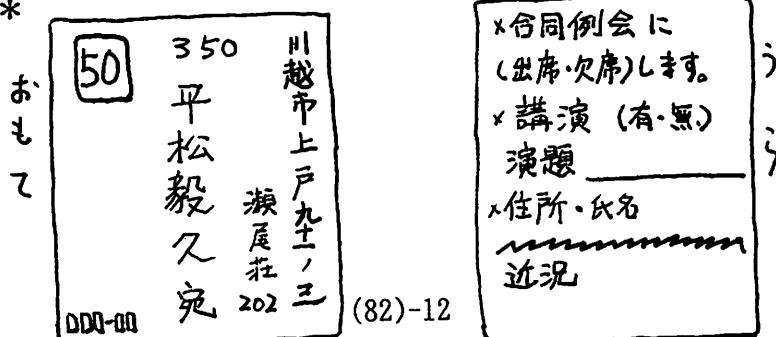
笹岡文雄 〒170東京都豊島区北大塚3-12-21 ☎03-3918-1945

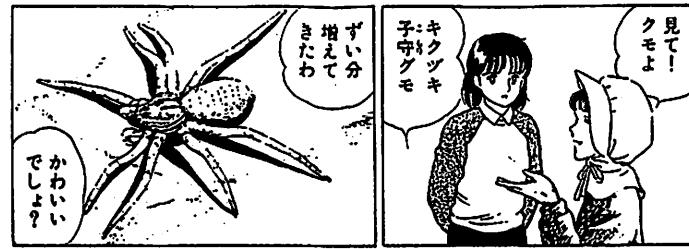
1. 原稿に形式は特に指定はありませんが、ワープロの場合はB5サイズ 40字 × 36行をお願いします。
2. 切りぬきの場合、出典名、日付を添えて下さい。

※「だんわ会」

企画および当日の世話人も募集しています。ドンドン平松、木村、笹岡まで。

* ハガキの書き方 *





モーニングKC
「夏子の酒」4巻
p.190-191

81

モーニングKC
「夏子の酒」8巻
p.81

↑

谷川明男さん提供 →

No. 82 付録1



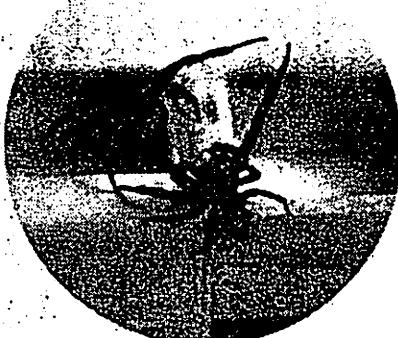
週刊モーニング 提供：笹岡
8-25/9-5合併号
p. 236-237



クモを使った横浜の伝統的子供遊び「ポンチ」の大企画が二十九日、横浜市港南区上大岡東三丁目の久良岐公園で開かれる。復活・普及の活動に取り組んでいる横浜ポンチ保存会が、会の創立十周年記念事業として催すもので、だれでも無料で参加できる。同会では「家族で蕉殻かしい遊びを体験してみませんか」と呼び掛けている。

「ポンチ」は日本ハンドトリック王の大人の雄。マ

ハマの伝統 クモ合戦



戦いを繰り広げるホンチ

29日に大会 港南区の公園で

サキやバラなどの生息し、四月中旬から六月上旬まで、長さが10cm程度の花が開花する。花は、強烈な香りで、花粉を運ぶホンチ遊びの仲間たちを惹きつける。花粉を運ぶホンチ同士を小さな花粉袋で包んで運ぶので、花粉袋が膨らんで盛りだくさんにならなくなってしまう。花粉袋が膨らんで盛りだくさんにならなくなってしまった花粉袋は、花粉を運ぶホンチの死因となる。

保存会が企画、参加自由

サキやバラなどの垣根に
生息し、四月中旬になると
らなくさへ見られる。体
長一㍍程度だが闘争心が
強く、ホンチ遊びは、ホ
ンチ同士を小さな箱に入
れ、戦わせて楽しんだ遊
び。昭和二十年代ごろま
で盛んだった。

大会は、午前十
時半ごろから同公
園で、戦いに使う
ホンチの採集を行った
後、午後一時ごろからト
ナメトによる試合を
展開する。会員は約四十
人が参加の予定で、会員
月一日に延期。一日も南
以外の参加者は同会で
クモ採集や試合の「一チ
も行う。各種の賞も用意
されていく。
(3000-1) 3224518。

ホンチの魅力 いざ体験

神奈川新聞

1994.4.27

1994.3.18

樂じて「ホンチ」遊び

10周年記念の樂じて「ホンチ」遊び
ながら歩みを振り廻る会員の
写真

い出で中心に
ひいた記念
誌も配布され
た。

クモを使った標榜の伝統的子供遊びの「ホンチ」を復活させよう、と設立された市民グループ・標榜がん保存会が創立十周年を迎えて、この度記念の樂いが開かれた。今月113日から記念事業として神奈川区内で初のホンチ展を開くなど、今シーズの活発な事業を展開して活動への関心をアピールしていく所存である。



「ホンチ」令和の標榜

ホンチはネコハエトリケモの成虫のオス。マサキやバチなどの垣根に生息し四月中じんからたくわん見られる。体長一センチだが闘争心が強く、ホンチ遊びは代から伝わり、昭和二十年代から盛りだった。

同保存会は会長で保土ヶ谷区上菅田町在住の佐藤芳夫さん(61)など、子供のころ夢中になつた市民数人が「復活、普及させかつてのよつと盛んにしてほしい」と一九八三年五月に結成した。

今では全国は標榜を中心

に県内各地や東京の幼稚園

ら八十年までの約五十人。

標榜返りた。また会員の恩

意も満足してくる。



年代記念三十~四十代が主導。四~六月のシーズンには毎年、大会を開いたり

親子を対象とした教室を開くなどして、このことにしてくる。

十周年記念の樂いは五

月、港北区の大倉山記念館で開催、活動は盛んになってくる。

当時のあこやさつを受けた、市立なども植物園の抱り、活動の様子を記録した

写真を貰って十年の歩みを

振り返った。また会員の恩

意も満足してくる。

十周年記念の樂いは五

月、港北区の大倉山記念館

で開催、活動は盛んになってくる。

保存会では四月十九日

に港北区の久良岐公園で会

員による大会、五月五日と

は西区の県立青少年センター

の広場で愛好者による大

会も予定している。

記念事業の一環として
十三日から
十七日まで、
東神奈川駅近
くの東神奈川
サティ四階文
化ホールでホ
ンチ展を開く。続いて五
月にはホンチ
の紹介ビデオ
を作り、この
テープ十本を
市教育委員会
に寄贈し学校

教材として活用してもらい
ることにしてくる。
ホンチ展は写真や資料ペ
ネル、銅音箱、関連のやも
ちやなどを展示するほか、
会員が人工飼育に成功した
ホンチを使い、シーズン前
では珍しい実演も行う。
保存会では四月十九日

に、市立なども植物園の抱
り、活動の様子を記録した
写真を貰って十年の歩みを
振り返った。また会員の恩
意も満足してくる。

先端



サントリー専務
医薬事業部長
中島 嘉躬
なかじま てるみ)

網にかかつた昆虫がクモに
かまると、体がしびれて翻
けなくなる。一九八三年に二
コーニニアで百五十四人のオオ
ジヨロウクモを採集、掛が如
足動物の神経に働きかけ、筋
肉に興奮を伝えるグルタミン
酸の流れを妨げることを発見
止めた。

この研究が重要なのは、人
間の様々な脳の病気の予防に
役立つ可能性を秘めるからだ。

一病、騒ひいそと後の細胞死などを引き起こすといふ。これが「クルタミン酸の流れを妨げる」ものである。この「妨碍」が、いわゆるクモの「毒」は一語、「殺虫剤」として注目を集め始めた。

脳の病気予防に道

カビ研究で養つた思考法原点に

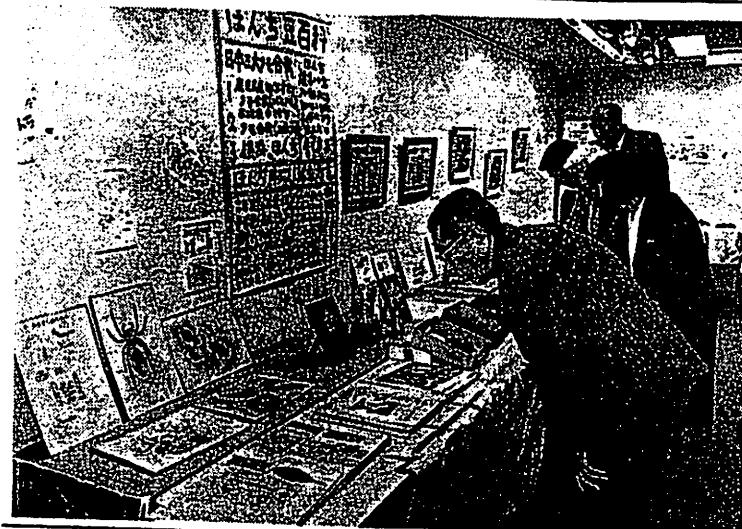
「毒」の研究に身を投じて三十年あまり。クモ毒の神経科学的研究に対して、自道医科大の川合史教授とともに日本医学院賞が贈られるなど、その業績は、まさに驚異的である。しかし、この「毒」の研究者としての彼の人生は、決して順風満帆ではなかった。彼は、常に「毒」に対する恐怖感と、それに伴う精神的葛藤を抱いていたのである。たとえば、彼は、常に「死の危機」を感じながら生きていた。また、彼は、常に「自己犠牲」の精神で、自分の命を犠牲にして、他の人々のために働くことを厭らなかった。しかし、彼は、常に「死の危機」を感じながら生きていた。つまり、彼は、常に「死の危機」を感じながら生きていたのである。

佐治敬三会長
人権学部長から
サントリー役

No. 82 付録3

小野展嗣さん提供

日本経済新聞(朝)
1994.4.25



東神奈川サティでホンチ遊び紹介展

昔懐かしクモ合戦

したひ、じゆじゆなクモを
集めた標本、ホンチグッズ

神奈川新聞
1994.3.24

よこはま

かつて横浜で囲んで行われたクモの合戦遊びを紹介した「ホンチ遊び展」が二十三日から、横浜市神奈川区の東神奈川サティ四階ホール（東神奈川駅近く）で始まり、二十七日まで開かれている。ホンチ遊びの紹介展は初めてで、多彩な展示物と年配者ならが懐かしうどと見えていた。

ホンチは、ネコハエトリクモの成虫の雌を囲称した遊び。ホンチ同士を小さな箱に入れて戦わせ楽しむ横戦の方向。体長一㍍ほどだが闘争心が強く、ホンチ遊びはホンチ同士を小さくして戦わせ楽しむもの。江戸時代に房総半島から入った、昭和二十年代

かついで横浜で囲んで行われたクモの合戦遊びを紹介した「ホンチ遊び展」が二十三日から、横浜市神奈川

区の東神奈川サティ四階ホール（東神奈川駅近く）で始まり、二十七日まで開かれている。ホンチ遊びの紹介展は初めてで、多彩な展示物と年配者ならが懐かしうどと見えていた。

ホンチ遊びのあれわれが幅広く紹介される雰囲気

まで盛んに親しまれた。同展は、この横浜遊びを受け継ぎ普及させていく保存会が創立十周年記念事業として開催したもの。

会場には、ホンチの捕獲方法、エトワリクモの方法、ハエトリクモの方法、金縛りなど、ホンチの捕獲方法、金縛りなどを解説した分布図などを示す。ホンチの成長過程を示す

。ねむひひや、鋼龍鏡の実物
が毎回高点が並ぶ。おもしろい
が毎回高点が並ぶ。おもしろい
川越敏がとくに)が昨秋以
前も田舎の活動を紹介した
山本放送され、思わず
「懐かしいな」と、真心
のひと時にひたる来場者の
姿も。小学生の時からの

川越敏がとくに)が昨秋以
前も田舎の活動を紹介した
山本放送され、思わず
「懐かしいな」と、真心
のひと時にひたる来場者の
姿も。小学生の時からの

川越敏がとくに)が昨秋以
前も田舎の活動を紹介した
山本放送され、思わず
「懐かしいな」と、真心
のひと時にひたる来場者の
姿も。小学生の時からの

ヤンボ様にサシリ

機ノ一発ラニマトウエスツアヌ（十日午後二時十分）成田空港に向かっていたマニス（三三発の米ノースエスト航空）便（ジャンボ機（乗員三百七十人））が、新東京空港事務所に「乗客が機内でサソリに刺された」と急病人の発生による緊急着陸の要請があった。同機は午後二時半すぎ、成田に到着した。

千葉県新東京市橋郷町)に
ると、刺されたのは米国籍の
男性会社員(35歳)。成田に到着
後、治療のため救急車で成田
市内の病院へ運ばれたが、背
中と左手の指に刺傷を受け、治
療を受ける間、米国に由
発した。

千葉県新東京市橋郷町)に
かず、いかなかった。サン
リは旅客の手荷物や衣服など
に付くか、機内の消音中に紛
れ込んだ可能性もあり、同航
空会社が調べてみる。
同署などによれば、この事件
はまだ二三日前の成田空港由米
国に帰る途次。搭乗料で約二

マニラ発成田行きのノースウエスト航空ジャンボ機内で米国人男性乗客を刺したサソリ=成田空港検疫所で

トカゲなどが航空機の貨物
室に紛れ込んだ」とは過去に
あったが、空港関係者は「客
室内で乗客がサソリに刺され
たのは初めてではないか」と
話している。

米国人客刺され緊急着陸

乗客を刺したマダラサンリ

機内にサソリ
乗客刺された!!

マニラ発の米機

機内にサソリ乗客刺された!!

ソリに刺されたものの運転があり、午後二時半、成田空港に着陸した。

新東京空港事務所などによると、刺されたのは米国人の男性会社員(四〇)。左の背中と左手人さし指を刺され、千葉県成田市内の病院で簡単な手当てを受けたが軽くはれた程度だった。

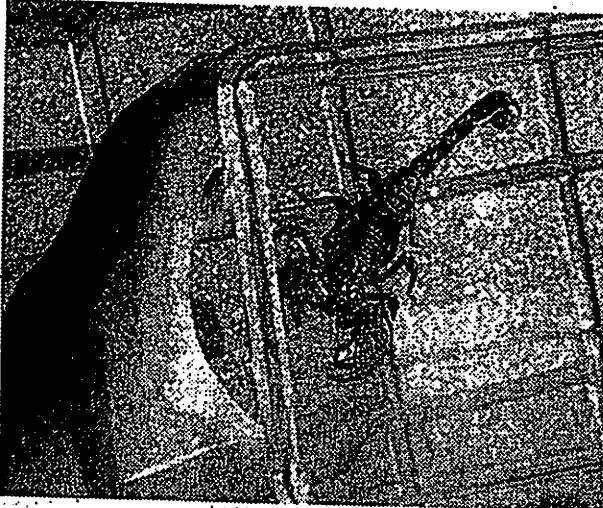
乗客三百五十九人、乗員十八人から運輸省・那覇管制部に「乗客一人がサ

会社員は「背中がモノモ

每日新聞
朝)

卷二 三三 任鋐人

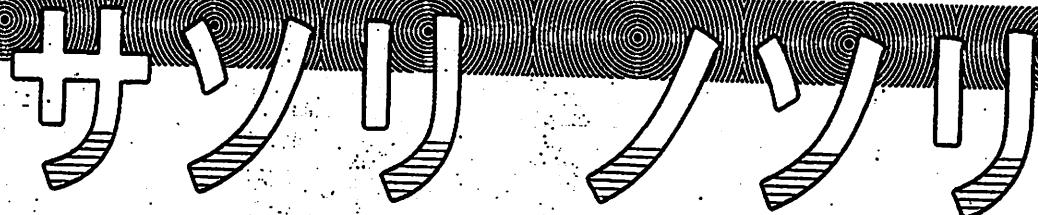
大都会 珍獣ペット脱走多発



4日深夜、熱帯魚店から逃げ出したサソリ

体長10センチ、路上で捕物

イケアナやアライグマなどのペットが街を歩き回って住民をびりびりさせるケースが相次いでいるが、東京都足立区では今月四日深夜、恐るべしのサソリがペット店の逃げ出しの一〇番通報された騒ぎがあった。今、空前のペットブーム。昨年は練馬区の石神井公園で、ワニがいるのだよと大騒ぎになった。警視庁の名鑑は相次ぐペットの「脱走事件」と、「飼い主は警察をじつかにして」と書かれていた。



★春以降、都内で見つかった「脱走」のペットたち

発見日時	種類	警察署	その後
①4月20日	ポニーマ	西新井署	4時間後、飼い主に渡される
②5月22日	アライグマ	光が丘署	飼い主が現れず、都の施設で保管
③6月4日	サソリ	西新井署	すぐにペット店に渡される
④6月8日	イケアナ	尾久署	上野動物園へ送られた後、飼い主に渡される
⑤6月9日	イケアナ	小金井署	5日後、飼い主に渡される
⑥6月11日	ハリネズミ	有賀署	2日後、飼い主に渡される
⑦6月15日	イタチ	黒目署	飼い主不明
⑧6月15日	イケアナ	馬署	飼い主不明

警視庁「厳重管理を」

四日午後十一時二十五分

足立区奥沢四の熱帯魚店前で、通行人がサソリ

が路上を歩いていた

と、警員がサソリを棒で街

頭部の根元を押さえつけ、

騒ぎで気付いたこの店の店

員がケースに収容した。

一〇番通報があった。西

新井署のパートカーが駆け付

け、警員がサソリを棒で街

頭部の根元を押さえつけ、

騒ぎで気付いたこの店の店

員がケースに収容した。

同店によると、サソリは

東南アジアから来た「大王

サソリ」で、体長約十㌢。フ

ラスチック製虫かごに入れ

置いていたが、萬歳(ハサ)

の天井のスライド式入り口

を押し開けて逃げ出し、店

入り口下のすき間から外に

出たらしい。このサソリは

毒はあるものの、刺されても

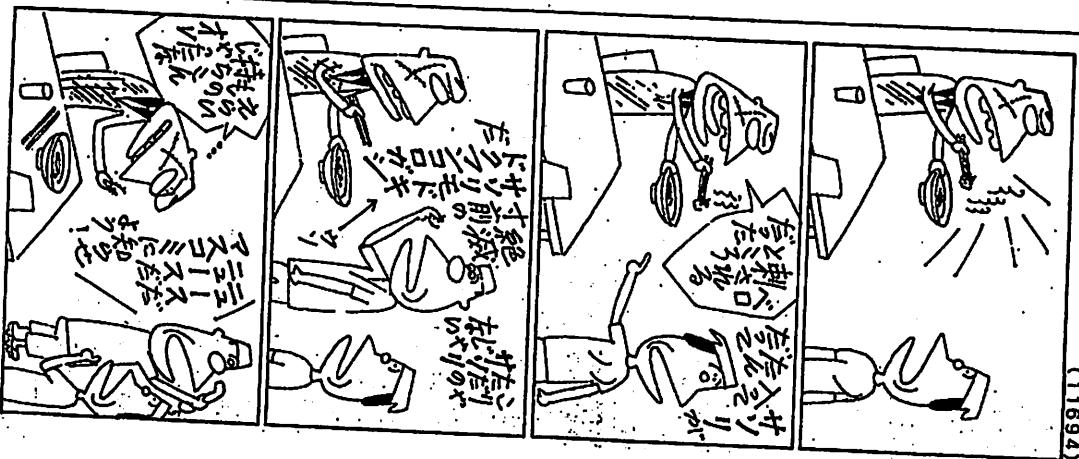
も死ぬことはないという。
都内では、こうしたペッ
トの脱走が今春以降、なせ
か続発している。荒川区東
尾久の駐車場では、メキシ
コ産グリーンイケアナが見
つかり、間もなく飼い主の
独身男性が現れた。

「ウチのイケアナではない
か」と問い合わせがあり、
かなりのイケアナが「脱走」
してしまった可能性もある。

さぬだヨーロッパモモイ
タチやユーラシア大陸の
ハリネズミも発見され、各
警察署では珍しい「拾得物」
の対応に大わらわ。

提供：笹岡

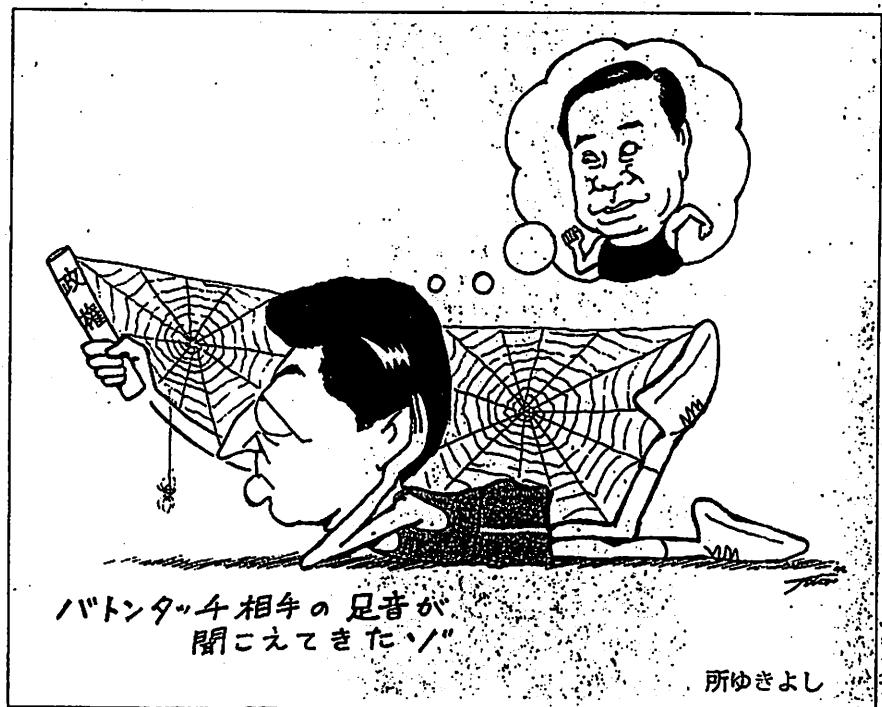
1994.6.16(夕) →



ホラーナイト
かのじゆく

1994.4.20(朝)

→ 1994.5.11(火)



No. 82 付録6

1994年(平成6年)5月22日(日曜日)

社会



鹿児島市内で見つかったチャグロサソリ

42歳ママひるまづ焼酎づけ

電話ボックスにサソリ

鹿児島で
いたずら?

いたなり、紙で包んで店に持ち帰り、ホルマリン代わりに焼酎を満たした瓶に詰め込んで置いてくる。
サソリの餌荀・繁殖をしてくる鹿児島の動物公園、

鹿児島市桜町口町の公衆電話ボックス内にサソリが放置されたことが二十日、分かった。園内には生息しないチャグロサソリで専門家は「海外からペットとして持ち込んだもの放棄したのではないか」とみている。現場は鹿児島の繁華街、天文館の一角。

近くに保育園やスーパー、ケツ、ホテルが建ち並び人通りも多いだけに、いたなりだとしたら迷惑だと感じる。発見したのは近くの不^良少年、谷口裕子さん(四〇)。十七日午後十一時二十分頃、電話ボックスに入ったところ、電話下に座っていた電話機の上にサソリを見つけた。ゴム製のオモチャと思いつたが、足がかすかに動く状態。かなり弱って



買います
ハエモビル
霜劍堂

刀
長崎県バー・キングガーデン
＝岡原宿郡山川町＝によ
るべ、体長約十五㌢ほど大き
い、毒針があり、体の色が
青黒いなどの特徴から、東
南アジアに生息するチャグ
ロサソリという。致命的な
猛毒はないが、刺された場
合、局所的な痛みを伴う。

↑
毎日新聞

提供: 笹岡



が魚を食べる!

スジブトハシリグモ

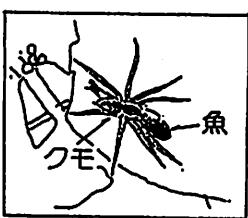
つかむような體現美に

厚木市七沢の県立自然保護センターの赤羽尚夫所長は、これまで目撲例すらなかった、クモが魚を食べるシーンを日本で初めて撮影した。と23日発表した。センターの自然觀察園の水辺で撮ったもので、クモが幼魚にかみ付き、消化液で栄養分を吸い取っている。赤羽所長は「たまたま園内を見回り、面白いと思って撮った」と懇意にしている。ことし8月、石川県金沢市で開かれる日本蜘蛛(くも)学会でも発表される。

8月、学会で発表

厚木・県立自然保護センター

日本初写真摄影に成功



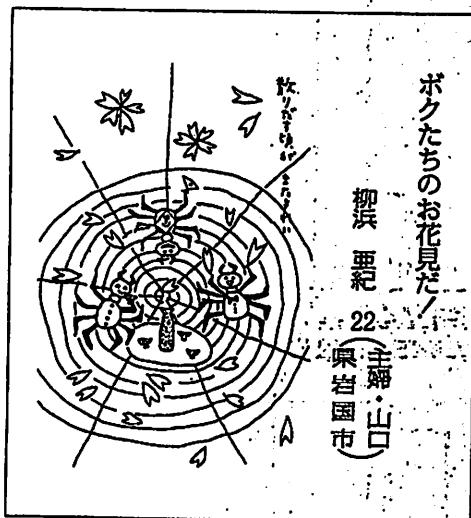
淡水魚モツガの幼魚を
食べるスジットハシニ
グモ

れ、魚を捕らえたるに随分手際がいい。が、これが
のくもより一回り小さく、
スジトイヘシリクモが最も
美しい。蜘蛛等でない
手間ねどりねどり、蜘蛛丸
人が赤城所最寄りの森園の
様子を語る。半径で距離を
標子を置き、半径で距離を
測るといふ真似だな」と
いふことである。

提供：笹岡

毎日新聞
1994.4.21(朝)

みんなの広場・



No. 82 付録7



スパイダーシュート

3206080

02,800円 2,500円

- サイズ:幅70×奥行70×高さ5cm ■ 材質:ポリプロピレン
ポリエチレン 合成ゴム ■ セット内容:発射台×4 チップ×24 ガードレール×1 ■ 単2乾電池2本使用(別売)
- 対象:5才から
- 動き回るバスケットスパイダーにコインをシュー!!

6 一枚の注文書で「くらしのカタログ

高橋祐子さん提供

出典不明